

ひらつか子育て応援プラン(素案)のパブリックコメント手続における意見

ページ	項目	意見の概要
1 10	2母子保健の状況 (1)出生時体重2,500g未満の出生割合の年次推移	出生時体重2,500g未満は母体のやせ志向や喫煙歴など生活習慣との関連が示唆されています。近年増加に歯止めがかかっているのは、妊娠前からの標準体重の維持や禁煙などの生活習慣の大切さについての啓発の効果と考えられます。 →母体、胎児、どちらに理由があるかは様々です。上記記載では母体にのみ原因があるような誤解を受けますので、説明を追記するか、表現に配慮を頂きたいです。
2 51	1(3)2 家庭教育支援の充実	金目地区に図書館の分館を作って欲しい。 読書活動の推進を図る事は素晴らしいと思います。ただ、金目地区からは平塚市の図書館が遠過ぎて、車がないと簡単に利用できません。土曜日だけ、少ない蔵書が公民館で利用できたり、移動図書館はありますが、図書館は本を借りるだけでなく、その空間で寛いだり、沢山の本を眺めたり読んだりすることにも価値があります。今の金目地区は、子ども達が読書活動に触れる機会が限られています。分館がある他の地区と比べて人口は遜色なく、むしろ子育て世代は年々増加しています。 予算が厳しいとは存じますが、読書や教育は街の財産になります。この地区にも平日土日使える、図書館の分館をぜひ作ってください。
3 58	2(2)7 活動場所の確保 2(3)8 民間団体との連携	ひらつか子育てプランが充実しているのは感じますが、将来を担うこどもの「食」について、あまりプラン化されていないと思いました。通学も進学も「生きることは食べることから」の基本的な身体づくり、食の重要性が盛りこんでいないと思いました。そこで提案したいのが、こども食堂(地域食堂)への支援です。公民館をこども食堂(地域食堂)の為に使用できる様にして欲しいと思います。 ひらつかのこども、高齢者の為に公民館をこども(地域)食堂として使用できる門戸を開いてください。
4 43 75	第3章 計画の基本的な考え方 基本目標5 子どもと親の健康づくり (平塚市母子保健計画) ○障がいや配慮が必要な子どもへの寄り添った支援の充実を図ります。 (1)切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策 基盤課題A ② 乳幼児の身体づくり 1 乳幼児健康診査(総)	乳幼児健康診査の受診は月齢のみとなっていますが、早産時の場合、月齢受診では正しい健診が難しいため、修正月齢(本来の出産予定日から数えた月齢)で受診ができるように改善いただきたいです。 例えば、早産で4か月健診の時期が本来の予定日から教えると1か月未満の時期となった場合、首のすわりや笑うことなどの質問には「いいえ」と答えることになると思います。 子どもが問題なく発育、発達しているかを確認するための検査のほうですが、現状は制度に子どもを合わせており、本質からズレているように感じます。修正月齢での受診が可能な自治体もある中で、平塚市はなぜ対応できないのでしょうか、見解をお願いしたく存じます。 正しい時期に正しい検査をすることが、問題の発見に繋がると思いますので修正月齢での受診について前向きにご検討をお願いいたします。 未熟児が減少している状況において、未熟児を想定した制度を策定することは難しいと思います。であるからこそ、実際に困っている声が挙がった場合には、そもそもの目的に立ち戻り、柔軟にご判断いただきたく存じます。
5 43 75	第3章 計画の基本的な考え方 基本目標5 子どもと親の健康づくり (平塚市母子保健計画) ○障がいや配慮が必要な子どもへの寄り添った支援の充実を図ります。 (1)切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策 基盤課題A ② 乳幼児の身体づくり 1 乳幼児健康診査(総)	・服薬中(要医療ケア)の子供が通える保育園の充実化 保育園において子どもの服薬が可能か市役所で確認したところ、公立保育園では対応不可と言われました。また、私立保育園に聞いたところ、突発的な風邪薬などは対応できても、継続しての服薬はできないと言われ、保育園を諦めました。看護師常駐の保育園など、安心して預けられる場所を作っていただきたいです。 ちなみに服薬無、現時点では発育・発達に問題がない状況であっても低出生体重児が故に今後の発育、発達に不安を抱えていることを話したところ、遠回しに保育を断られた保育園もありました。
6 全般	目標1～5にあたる内容	<ul style="list-style-type: none"> ・くすのきでは中学生を対象としているが、小学生の居場所がないので作ってほしい。 ・くすのき自体の予算も少ないのでもっと予算を出してほしい。 ・くすのきに來られていない中学生の居場所もほしい。 ・個別訪問の先生は1人居られるけど、もっと増やしてほしい。 ・不登校児の親同士の交流の場をもうけてほしい。 ・窓口で、不登校児の親や経験者が対応できるようなシステムがあれば困っている親子は救われます。 ・個々の個性に寄りそってくれる人材を確保していただきたい。 ・周囲へくすのきなど不登校児がいられる居場所を周知してもらいたい。 ・学校では個性を生かされていないため、個性を生かす教育を出来る場がほしい。 ※「くすのき」とは、子ども教育相談センター内に設置している適応指導教室です。